

問題

空間に三角形 ABC があるとし、空間の原点 O は、この三角形が決定する平面上にはないとする。

1. 実数  $u, v, w$  が、等式  $u\vec{OA} + v\vec{OB} + w\vec{OC} = \vec{0}$  を満たすならば、 $u = v = w = 0$  であることを示せ。
2. 辺 BC, CA, AB の長さを、それぞれ  $a, b, c$  とし、三角形 ABC の内接円の中心を P とすると、等式  $\vec{OP} = u\vec{OA} + v\vec{OB} + w\vec{OC}$  が成立するという。  $u, v, w$  を  $a, b, c$  を用いて表せ。

解答

1.

$u, v, w$  のうちどれかひとつが 0 でなく残りの二つが 0 であったとする。

$u$  が 0 でないならば、 $u\vec{OA} = \vec{0}$  となるが、原点 O は三角形 ABC の決定する平面上にないので、 $\vec{OA} \neq \vec{0}$

したがって  $u = 0$  となる。

$u, v, w$  は対等なので、同様に  $u, v, w$  のうちひとつだけが 0 ではないという事はない。

$u, v, w$  のうちひとつだけが 0 であるとする

仮に  $w$  が 0 だとすると

$$u\vec{OA} + v\vec{OB} = \vec{0}$$

となり、 $u\vec{OA} = -v\vec{OB}$

となる。これは、 $\vec{OA}$  が  $\vec{OB}$  で表されることになるので、OAB が一直線上に存在することを意味する。

しかし、原点 O は三角形 ABC の決定する平面上にないので矛盾する。したがって  $w$  のみが 0 であることはない。

$u, v, w$  は対等なので、同様に  $u, v, w$  のうちひとつだけが 0 ということはない。

$u, v, w$  すべてが 0 でないとする。

$$u\vec{OA} + v\vec{OB} + w\vec{OC} = \vec{0} \text{ なので } -\frac{u}{w}\vec{OA} - \frac{v}{w}\vec{OB} = \vec{OC}$$

となり  $\vec{OC}$  が  $\vec{OA}, \vec{OB}$  で表されることになる。

これは、点 C が三点 OAB の決定する平面上にあることを意味するが、点 O が三角形 ABC の決定する平面上にあることと矛盾する。

したがって、 $u, v, w$  のすべてが 0 以外とはならない。

以上により、 $u, v, w$  はすべて 0 である。

2.

三角形 ABC の決定する平面上の点 Q をとると点 P は内心なので  $\vec{QP} = \frac{a\vec{QA} + b\vec{QB} + c\vec{QC}}{a + b + c}$  となる。

点 O からのベクトルで考えると

$$\vec{QP} = \vec{OP} - \vec{OQ}$$

$$\vec{QA} = \vec{OA} - \vec{OQ}$$

$$\vec{QB} = \vec{OB} - \vec{OQ}$$

$$\vec{QC} = \vec{OC} - \vec{OQ}$$

と書けるので

$$\begin{aligned}\overrightarrow{QP} &= \frac{a\overrightarrow{QA} + a\overrightarrow{QB} + a\overrightarrow{QC}}{a+b+c} \\ &= \frac{a(\overrightarrow{OA} - \overrightarrow{OQ}) + b(\overrightarrow{OB} - \overrightarrow{OQ}) + c(\overrightarrow{OC} - \overrightarrow{OQ})}{a+b+c} \\ &= \frac{a\overrightarrow{OA} - a\overrightarrow{OQ} + b\overrightarrow{OB} - b\overrightarrow{OQ} + c\overrightarrow{OC} - c\overrightarrow{OQ}}{a+b+c} \\ &= \frac{a\overrightarrow{OA} + b\overrightarrow{OB} + c\overrightarrow{OC}}{a+b+c} - \frac{a\overrightarrow{OQ} + b\overrightarrow{OQ} + c\overrightarrow{OQ}}{a+b+c} \\ &= \frac{a\overrightarrow{OA} + b\overrightarrow{OB} + c\overrightarrow{OC}}{a+b+c} - \frac{(a+b+c)\overrightarrow{OQ}}{a+b+c} \\ &= \frac{a\overrightarrow{OA} + b\overrightarrow{OB} + c\overrightarrow{OC}}{a+b+c} - \overrightarrow{OQ}\end{aligned}$$

となり

$$\overrightarrow{OQ} + \overrightarrow{QP} = \frac{a\overrightarrow{OA} + b\overrightarrow{OB} + c\overrightarrow{OC}}{a+b+c}$$

となる。

$$\overrightarrow{OQ} + \overrightarrow{QP} = \overrightarrow{OP}$$

なので

$$\overrightarrow{OP} = \frac{a\overrightarrow{OA} + b\overrightarrow{OB} + c\overrightarrow{OC}}{a+b+c}$$

となり

$$\overrightarrow{OP} = \frac{a}{a+b+c}\overrightarrow{OA} + \frac{b}{a+b+c}\overrightarrow{OB} + \frac{c}{a+b+c}\overrightarrow{OC}$$

よって

$$u = \frac{a}{a+b+c}$$

$$v = \frac{b}{a+b+c}$$

$$w = \frac{c}{a+b+c}$$